

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

タマネギべと病に対する継続的な薬剤の予防散布の徹底について

4月2～3日の定期調査で、タマネギ早生品種においてべと病の二次感染株の発生を確認しました。現在、早生・中晩生品種ともに主要な感染期に入っており、感染拡大を防ぐために、薬剤の予防散布を徹底することが極めて重要です。については、以下を参考に、生産者への指導をお願いします。

記

1. 発生概況（令和7年4月2～3日定期調査）

- マルチ栽培8圃場（早生品種主体）のうち2圃場でべと病の二次感染株がみられた（写真）。一次感染株も含めた平均発生株率は2.8%（発生圃場率50%）であり、前回調査（3月18～19日）から増加した（図1）。
- 露地栽培10圃場（中晩生品種主体）でのべと病の平均発生株率は0.01%（発生圃場率10%）であり（図2）、二次感染株は認めなかった。

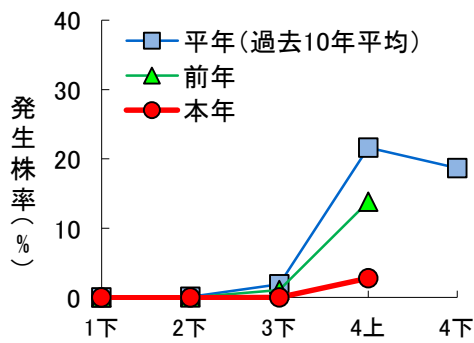


図1 マルチ栽培タマネギでのべと病の発生推移

※前年の4月下旬は収穫済みのため欠測。

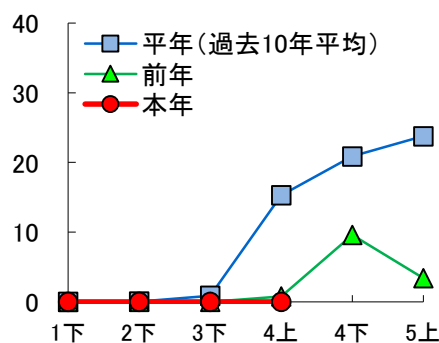


図2 露地栽培タマネギでのべと病の発生推移



写真 二次感染株
(令和7年4月2日)

注) 矢印は病斑を示す。

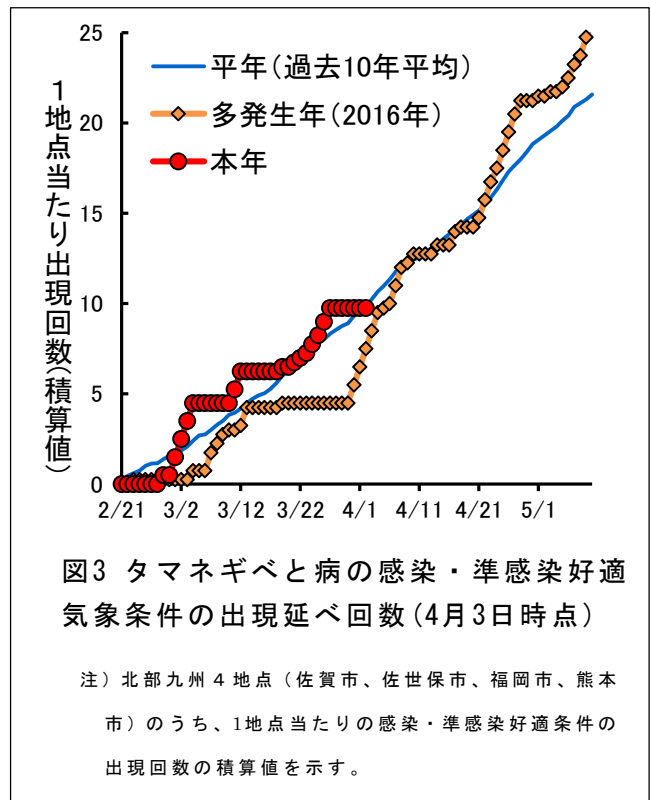
2. 気象推移に基づく今後の発生予測

【これまでの状況】

- 本病の感染に好適な条件が2月28日～3月4日頃に出現した。主にこの時期の感染が、約2～3週間の潜伏期間を経て、3月下旬以降の発病につながったと考えられる（図3）。

【今後の予想】

- 1) 本病の感染に好適な気象条件が3月24～27日頃にも出現したことから、約2週間の潜伏期間を経て、今後、発病が増加する可能性がある。
- 2) 福岡管区気象台が4月3日に発表した九州北部地方の1か月予報では、降水量は平年並か少ない見込みであるものの、天気は数日の周期で変わると予想されている。このため、感染に好適な曇雨天が出現した場合は、さらなる感染が助長されると予想される。



3. 防除対策

- 1) 一次感染株は周囲への伝染源となるため、早急に抜き取る。
- 2) 最新の気象予報や図4を参考に、継続的な薬剤の予防散布を徹底する。
- 3) 防除対策の詳細については、令和7年3月6日付け病害対策資料第17号及び佐賀県病害虫総合防除計画(麦類・野菜・花き・飼料作物)を参照する。

早生タマネギ						中晩生タマネギ							
月	3月		4月		5月	月	3月		4月		5月		
旬	下	上	中	下	上	旬	下	上	中	下	上	中	下
べと病の伝染時期	<div style="text-align: center;"> ←→ 二次伝染期 ←→ 主要伝染期 </div>					<div style="text-align: center;"> ←→ 二次伝染期 ←→ 主要伝染期 </div>					収穫		
防除薬剤	ジマンダイセン水和		ジマンダイセン水和		フロンサイドSC	<div style="text-align: center;"> ジマンダイセン水和剤 4～5回 </div>					フロンサイドSC		

図4 タマネギべと病の伝染時期と薬剤防除体系(例)

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840-2205 佐賀市川副町南里1088
 TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085
 Mail nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp
 ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

